

國學院大學学術情報リポジトリ

第123巻総目録

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000020

第123巻総目録

〔分類索引〕

哲学

- 漱石と文明開化の弁証法 藤 野 寛 123－8
谷崎潤一郎『陰翳禮讃』における美と倫理の批判的考察
一人種概念および日本人の身体観をめぐる近代性と美学・美術史上の論点を
中心に (特集 美と倫理) 平 井 倫 行 123－11
アートとしての公園が環境問題に果たす役割—モエレ沼公園の事例から
(特集 美と倫理) 八 幡 さくら 123－11

哲学各論

- An Explanation of Hallucination and Illusion by the Direct Perception Theory
金 杉 武 司 123－4
「根本悪に直面する芸術」のアポリア
(特集 美と倫理) 西 村 清 和 123－11
文芸作品と情動 —ラサ理論の視点から—
(特集 美と倫理) 渡 辺 俊 和 123－11
反自然主義的道德実在論の擁護
—体系的な存在論的反自然主義の構想の一部として
(特集 美と倫理) 金 杉 武 司 123－11
自己の物語的構成
(特集 美と倫理) 森 永 豊 123－11

東洋思想

- 『「いき」の構造』は倫理学の書か、美学の書か
(特集 美と倫理) 藤 野 寛 123－11
文芸作品と情動 —ラサ理論の視点から—
(特集 美と倫理) 渡 辺 俊 和 123－11

西洋哲学

- An Explanation of Hallucination and Illusion by the Direct Perception Theory
金 杉 武 司 123－4
ルネサンスの宗教論と多様性の問題
—マキアヴェッリ、ピーコ・デッラ・ミランドラ、ジョルダノ・ブルーノ
(特集 美と倫理) 岡 本 源 太 123－11

古代ギリシア医学における身体・環境・宇宙

— 哲学的方法との関連から見たヒポクラテスのHolism

(特集 美と倫理) 木 原 志 乃 123-11

反自然主義的道德実在論の擁護

— 体系的な存在論的反自然主義の構想の一部として

(特集 美と倫理) 金 杉 武 司 123-11

シモース・ヴェイユの労働者教育の基盤を探る

(特集 美と倫理) 佐 藤 紀 子 123-11

啓蒙の方法としてのフィクション

— フロイトの超自我論とリクールの解釈学—

(特集 美と倫理) 櫻 井 一 成 123-11

倫理学・道德

『「いき」の構造』は倫理学の書か、美学の書か

(特集 美と倫理) 藤 野 寛 123-11

反自然主義的道德実在論の擁護

— 体系的な存在論的反自然主義の構想の一部として

(特集 美と倫理) 金 杉 武 司 123-11

「美しい」外見を求めることは、倫理的な問題となるのか — ルッキズムと倫理

(特集 美と倫理) 小手川 正二郎 123-11

芸道と武士道における美の顕現をめぐって

— 「初心」の概念についての倫理的考察

(特集 美と倫理) 吉 原 裕 一 123-11

宗教

情報化と宗教団体の邂逅

石 井 研 士 123-5

ルネサンスの宗教論と多様性の問題

— マキアヴェッリ、ピーコ・デッラ・ミランドラ、ジョルダノー・ブルーノ

(特集 美と倫理) 岡 本 源 太 123-11

藤澤親雄の形而上学的地政学

(小特集 神道文化研究の今後の展望 — 神道文化学部開設二十周年記念 —)

エリック・シッケタンツ 123-12

神道

三峯神社本殿・拝殿葺材の歴史的変遷

— 近世中・後期の建築過程を中心に—

川 田 大 晶 123-5

吉田兼俱の三十番神説形成について

出 淵 智 信 123-8

賀茂真淵と本居宣長における祝詞認識の相違 —神の言葉をめぐる祝詞研究史—

入 倉 滉 太 123-9

『天日隅宮考』と出雲大社

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

西 岡 和 彦 123-12

開国と国学

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

武 田 秀 章 123-12

日本古代における死者の霊と祟り・災害に関する考察

—貞観御霊会に至る背景を中心に—

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

小 林 宣 彦 123-12

願いを叶えるには「どこの神社に行くべきか」

—神道系スピリチュアリティにおける神社選びの基準について—

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

大 道 晴 香 123-12

戦後神道研究における民俗学の位置 —民俗学的神道研究の展望—

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

柏 木 亨 介 123-12

神社年中行事形成の淵源

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

鈴 木 聡 子 123-12

古代伊勢神宮における祭祀所役について —禰宜職の増員と所役の変化—

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

山 口 祐 樹 123-12

仏教

真宗門徒の死者供養にみる民俗的心意

—愛媛県今治市大三島町野々江のイハイを背負う盆踊り—

柏 木 亨 介 123-9

キリスト教

中世フランス王権のイメージ形成 —聖王ルイの事績と奇蹟を中心に—

(特集 美と倫理)

小 池 寿 子 123-11

歴史

日本史

[古代]

国分寺造営の土木技術と造塔

—相模・武蔵国分寺の堂塔造営順序の復元をめぐって—

青 木 敬 123-4

十六社奉幣制の形成過程における神仏習合の淵源

—九世紀から十世紀前期を中心として—

花 岡 光 男 123-6

御民われ生ける験あり —天平六年の「詔」と「応詔」—

土 佐 秀 里 123-9

日本古代における死者の霊と祟り・災害に関する考察

—貞観御霊会に至る背景を中心に—

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

小 林 宣 彦 123-12

古代伊勢神宮における祭祀所役について —禰宜職の増員と所役の変化—

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

山 口 祐 樹 123-12

[中古]

神社年中行事形成の淵源

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

鈴 木 聡 子 123-12

[近世]

「赤気」と近世社会 —明和七年の「赤気」をめぐる人々の対応と認識—

岩 橋 清 美 123-2

三峯神社本殿・拝殿葺材の歴史的変遷 —近世中・後期の建築過程を中心に—

川 田 大 晶 123-5

葛飾北斎画「富嶽三十六景」にみる「光琳」イメージ —浮世絵と琳派—

(特集 美と倫理)

藤 澤 紫 123-11

開国と国学

(小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—)

武 田 秀 章 123-12

[近代以後]

満洲国における「国家」と「自由」 —「人権保障法」の制定をめぐって—

樋 口 秀 実 123-3

戦前日本の選挙運動と候補者家族

手 塚 雄 太 123-10

戦後日本の公文書管理とマイクロフィルム —1960~70年代を中心に—
出 口 颯 涼 123-10

錦絵《初春書始寿語六（はつはるかきぞめすごろく）》
—明治四年（一八七一）、制作の意味と内容—
（特集 美と倫理） 岩 切 信一郎 123-11

藤澤親雄の形而上学的地政学
（小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—）
エリック・シッケタンツ 123-12

アジア史・東洋史

満洲国における「国家」と「自由」
—「人権保障法」の制定をめぐる— 樋 口 秀 実 123-3

ヨーロッパ史・西洋史

中世フランス王権のイメージ形成 —聖王ルイの事績と奇蹟を中心に—
（特集 美と倫理） 小 池 寿 子 123-11

社会科学

政治

戦前日本の選挙運動と候補者家族 手 塚 雄 太 123-10
戦後日本の公文書管理とマイクロフィルム
—1960~70年代を中心に— 出 口 颯 涼 123-10
藤澤親雄の形而上学的地政学
（小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—）
エリック・シッケタンツ 123-12

社会

情報化と宗教団体の邂逅 石 井 研 士 123-5
戦前日本の選挙運動と候補者家族 手 塚 雄 太 123-10

風俗習慣・民俗学・民族学

真宗門徒の死者供養にみる民俗的心意
—愛媛県今治市大三島町野々江のイハイを背負う盆踊り—
柏 木 亨 介 123-9

戦後神道研究における民俗学の位置 —民俗学的神道研究の展望—
（小特集 神道文化研究の今後の展望 —神道文化学部開設二十周年記念—）
柏 木 亨 介 123-12

天文学・宇宙科学

「赤気」と近世社会
—明和七年の「赤気」をめぐる人々の対応と認識— 岩 橋 清 美 123-2

技術・工学

建築学

三峯神社本殿・拝殿葺材の歴史的変遷

—近世中・後期の建築過程を中心に—

川 田 大 晶 123-5

芸術・美術

谷崎潤一郎『陰翳禮讃』における美と倫理の批判的考察

—人種概念および日本人の身体観をめぐる近代性と美学・美術史上の論点を
中心に (特集 美と倫理) 平 井 倫 行 123-11

中世フランス王権のイメージ形成 —聖王ルイの事績と奇蹟を中心に—

(特集 美と倫理) 小 池 寿 子 123-11

アートとしての公園が環境問題に果たす役割 —モエ沼公園の事例から

(特集 美と倫理) 八 幡 さくら 123-11

ガストン・バシュラルにおける芸術の社会「貢献」

—サルトルを媒介として—

(特集 美と倫理) 橋 爪 恵 子 123-11

絵画・書道

葛飾北斎画「富嶽三十六景」にみる「光琳」イメージ —浮世絵と琳派—

(特集 美と倫理) 藤 澤 紫 123-11

第二帝政末期のエドゥアール・マネ受容

—1869年のサロン出品作《バルコニー》をめぐる批評言説を読み解く

(特集 美と倫理) 井 口 俊 123-11

ハンス・メムリンク作《最後の審判》に描かれた肖像をめぐる

—シャルル突進公の「擬装肖像」を中心とした図像プログラムの再構成—

(特集 美と倫理) 舟 場 大 和 123-11

版画

葛飾北斎画「富嶽三十六景」にみる「光琳」イメージ —浮世絵と琳派—

(特集 美と倫理) 藤 澤 紫 123-11

錦絵《初春書始寿語六（はつはるかきぞめすごろく）》

—明治四年（一八七一）、制作の意味と内容—

(特集 美と倫理) 岩 切 信一郎 123-11

写真・印刷

杉浦非水と國學院大學構内兄弟姉妹社発行『兄弟姉妹』
—明治後期の児童雑誌にみるデザインの特徴を中心に—

山 口 希 123-5

工芸

やきものの意匠と文様表現 —「氷梅文」の描法分析を中心に—
(特集 美と倫理)

松 浦 里 彩 123-11

音楽・舞踊

演奏の思想

—1970年代の高橋悠治における「自発性」の問題 埴 岡 悠 希 123-1
《仮面舞踏会》(1859)における合唱の機能

—「舞台配置書 Disposizione scenica」を手掛かりに—

長 屋 晃 一 123-8

ヴェルディにおける音楽の「色合い」

—《ドミノの復讐》の検閲をめぐる資料から

(特集 美と倫理)

長 屋 晃 一 123-11

諸芸・娯楽

錦絵《初春書始寿語六（はつはるかきぞめすごろく）》

—明治四年（一八七一）、制作の意味と内容—

(特集 美と倫理)

岩 切 信一郎 123-11

言語

構造に見ることばの本質

—ヒト固有の特質としての言語—

水 口 学 123-1

日本語

複合辞ベカメリについて —証拠性の変質—

三 宅 清 123-1

古典文を文法的に読むということ

—『源氏物語』夕顔巻「おのがいとめでたしと」の解釈について—

小 田 勝 123-2

現代語訳「死にさうだ」に躊躇した理由はどこに

—夕顔巻地の文の「わななき死ぬべし。」にも問題が—

中 村 幸 弘 123-3

類同と随伴の意味論

多 門 靖 容 123-3

『周易集註鈔』における「ハヅ」の用法

山 田 潔 123-4

主観的情意提示の擬似連用成分

—このような語群のこのような働きは、どう呼んで取り扱われてきたか—

中 村 幸 弘 123-9

賀茂真淵と本居宣長における祝詞認識の相違

—神の言葉をめぐる祝詞研究史—

入 倉 滉 太 123-9

近世抄物類における「ハヅ」の用法

山 田 潔 123-10

ドイツ語

標準ドイツ語発音の標準形と変異形の対応関係に関する一考察

—ドイツ語発音教材の分析より—

新 倉 真矢子 123-6

文学

谷崎潤一郎『陰翳禮讃』における美と倫理の批判的考察

—人種概念および日本人の身体観をめぐる近代性と美学・美術史上の論点を

中心に (特集 美と倫理)

平 井 倫 行 123-11

日本文学

『源氏物語』〈女系繁栄譚〉試論

—明石の入道と按察大納言の血統観—

神 原 勇 介 123-6

芸道と武士道における美の顕現をめぐる

—「初心」の概念についての倫理的考察

(特集 美と倫理)

吉 原 裕 一 123-11

詩歌

[古代]

御民われ生ける験あり —天平六年の「詔」と「応詔」—

土 佐 秀 里 123-9

小説・物語

[古代]

『古事記』における「将来」と「持来」

藤 嶋 健 太 123-7

[中古]

古典文を文法的に読むということ

—『源氏物語』夕顔巻「おのがいとめでたしと」の解釈について—

小 田 勝 123-2

[近世]

『春遊機嫌話』序文をめぐる

—『金々先生栄花夢』との関わり—

中 村 正 明 123-1

[近代以後]

綿矢りさ『インストール』と柳美里『自殺の国』の間で

—サイボーグ化する若者たち—

スベッキオ アンナ 123-2

中国文学・その他の東洋文学

『詩経』『木瓜』義解管見 —「喩」の機能について

石 本 道 明 123-7

英米文学

「完璧な紳士」ジョージ・ケンプ

—サマセット・モーム『お菓子和ビール』についての一考察—

藤 野 敬 介 123-7

フランス文学

ガストン・バシュラルにおける芸術の社会「貢献」

—サルトルを媒介として—

(特集 美と倫理)

橋爪 恵子 123-11

書評

高村聡史著『〈軍港都市〉横須賀 軍隊と共生する街』

土 田 宏 成 123-3

土佐秀里著『律令国家と言語文化』

塩 沢 一 平 123-4

林田孝和著『林田孝和著作集』全四巻

森 野 正 弘 123-5

小田勝著『百人一首で文法談義』

浅 田 徹 123-6

赤井益久著『唐代伝奇小説の研究』

澤 崎 久 和 123-7

伊藤陽平著『日清・日露戦後経営と議会政治 —官民調和構想の相克—』

小 山 俊 樹 123-10

紹介

伊藤慎吾、中村正明著『〈生ける屍〉の表象文化史 —死霊・骸骨・ゾンビー—』

上石田 麗 子 123-1

伊藤龍平著『ヌシ 神か妖怪か』

齊 藤 純 123-2

談話室

戦後の神社神道

茂 木 貞 純 123-1

人見知りと社会的参照

斉 藤 こずゑ 123-2

古典籍との出会い

針 本 正 行 123-3

シブヤの中の渋谷 —國大生は牛若丸になぞらえられていたか—

野 中 哲 照 123-4

愛と悲しみ—ベル・フックスが教えてくれたこと

小手川 正二郎 123-5

現代アートから見える神話の世界	平 藤 喜久子	123-6
「ロシア嫌い」と「社会主義嫌い」	神 長 英 輔	123-7
海外生活と言葉	進 藤 久 乃	123-8
ことばはコミュニケーションの「ため」のもの？	水 口 学	123-9
神社と図書館	新 藤 透	123-10

講演録

ことばはおどる	新 井 高 子	123-10
---------	---------	--------

座談会

神道文化学部開設二十年を迎えて	西 岡 和 彦	
	石 井 研 士	
	武 田 秀 章	
	黒 崎 浩 行	
	笹 生 衛	
(司会)	鈴 木 聡 子	123-12